

# 美術

by 宮田 徹也

現在、川崎市市民ミュージアムで「シリーズ・川崎の美術 樋口正一郎・井川惺亮」展が開催中です。展覧会の趣旨を同美術館の刊行物から引用します。「絵画や立体作品のほか、清澄白河駅ホームの壁画などのパブリックアートを制作した樋口と、インスタレーションを中心制作している井川は、共に1944年生まれです。今回は、同じ時

代を生き、制作し続ける二人の作家を通じ、現代美術の一端を垣間見る展覧会です。

二人は同時期に東京芸術大学に在籍していました。樋口は彫刻科、井川は油画科を卒業しながらも、この展覧会に展示されている作品群では樋口が平面、井川が立体作品を発表しているように見えます。

樋口と井川は活動当時から毎年、個展を開催しています。二人とも一回の個展毎に莫大な数の作品を発表するので、これまで膨大な作品を制作してきました。

今日でも二人は制作を続けていますので、これからも増え続けることでしょう。二人にとって平面、立体と

いう枠は問題ではないのです。だからこそ現代美術の最前線で活動しています。今回は、その作品群の一端を美術館で見ることができ

ます。樋口は「色」の模索をテーマとした2008年から展覧会直前まで制作した作品43点をアートギャラリー3に、井川はキャンバス、木材、紐にまで原色で着色した連作4組と新作2点、展覧会初日に子供達と描い

た10層はあろうか作品3点をアートギャラリー2に展示しています。連作は1982年、99年、2010年、14年から16年と様々です。

二人は同じ空間にそれぞれの作品を展示するというプランを設けていました。最終的に部屋を別々にした

そうです。それによって、似て非なる二人の作品の特徴が浮彫となります。樋口は平面に遠近法ではなく建築的な空間性を掘

り起こし、井川は空間を広げることによって平面に収斂させていきます。

二人は平面、立体の区別をつけない以外に、鮮やかな色彩を用いることが共通

します。現代美術はとにかく「難しい」と思われたいしますが、二人の作品を見ると心が晴れてきます。「綺麗、可愛い、

分かりやすい」という主題を用いずとも、「人間はなぜここで生きていくのか」という現代美術の課題を表明することが可能なのです。

それは二人が超絶技巧という筆の運びにこだわらず、定規、たらしこみといった自由な発想を持ちえていることにも由来します。

色彩という光を放つ二人の作品を見ることで、この絶望の時代に生きていく勇気を見つけることができるでしょう。

「シリーズ・川崎の美術 樋口正一郎・井川惺亮 (せいろよつ)」展  
場所：川崎市市民ミュージアム(武蔵小杉駅からバス

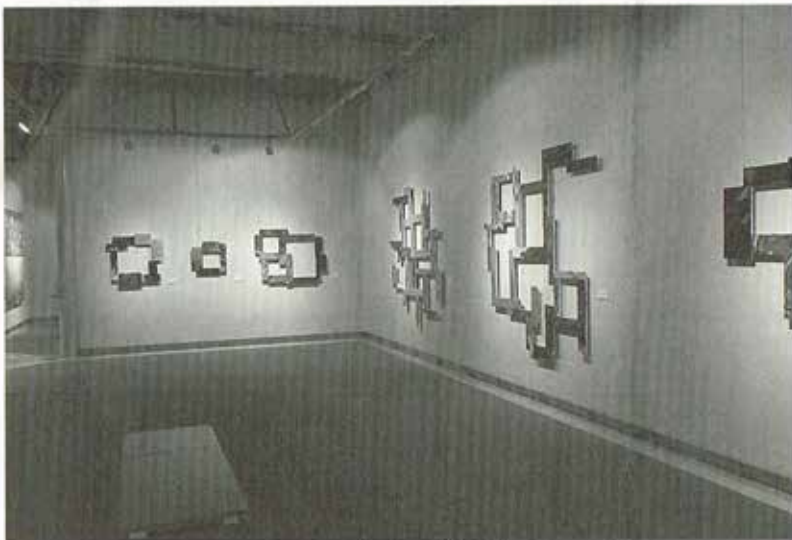
約10分)

日程：7月24日まで  
入場：無料  
イベント：学芸員による

作品解説 7月16日15時から

問合せ：044-754

14500



樋口正一郎展示風景 提供：川崎市市民ミュージアム

## シリーズ・川崎の美術

樋口正一郎・井川惺亮展

川崎市市民ミュージアム